

2025年11月定例議会 討論

2025年12月19日

氏平 三穂子

日本共産党の氏平三穂子です。私は今議会に提出された議案のうち、2件について、また、請願15件、陳情11件につきましては、委員長報告の通りに決することに反対し、その主なものについて、理由を述べます。

まず、議第156号令和6年度岡山県歳入歳出決算の認定についてです。決算では広域水道企業団の「余り水」への支出、また大型投資拠点補助金は、国の補助金も何もつかない県単独の一般財源で支出される補助金として破格の額になっており、認めるわけにはいきませんので反対します。県民のくらしが大変厳しくなっています。少子化対策として、小児医療費公費負担制度や障がい者医療費公費助成制度の拡充を求めたいと思います。そこにこそ支援すべきではないでしょうか。。よって議第156号は反対します。

次に陳情77号「高額療養費制度の上限引き上げの見直しを求めることについて」です。

高市内閣は日本維新の会と連立を組みました。維新は医療費の4兆円削減を押し進めようとしています。ベット11万床削減やOTC類似薬の保険外しなどが取りざたされていますが、この高額療養費制度の上限引き上げも凍結が外されることを懸念します。

ただでさえ物価高騰で生活が苦しい中、これ以上の医療費負担は限界です。効果の高い治療をあきらめて、安価な治療に変更したり、最悪の場合治療そのものを中断せざるをえない事態を招きかねません。委員長報告では継続となっていますが、直ちに採択すべきです。

次に請願第40号、「35人以下学級を中学、高校でも実施することを求めることについて」は採択を求めます。

子どもたちを取り巻く環境は、今まさに非常事態と言わなければなりません。不登校の小中学生は35万4千余人と12年連続で増加し、高校生を含めれば40万人を超えています。文部科学省自身も「不登校児童生徒への支援について」の中で少人数での教育環境は「児童生徒の小さな変化や成長をキャッチすることができ、安心感や自己肯定感の醸成につながる」と認めています。また少人数学級は、教員が1人ひとりの子どもと向き合う時間を確保することもできます。すべての子どもたちの学びと成長を保障するために、今もっとも必要な施策だと思いますので採択を求めます。

次に請願第53号「岡山県子どもの権利条約を制定することを求めることについて」採択すべきです。

1989年国連は子どもの権利条約を採択し、日本は1994年これを批准しました。30年後、子ども基本法などが制定されましたが、日本の子どもの生きづらさは増す一方です。「子どもの権利が保障され、平等に安心して成長・発達することができる子ども時代を過ごす」ことができるようにするために、子供の権利条約を実現する内容、意見表明権を明記した「岡山県子どもの権利条例の制定を求める請願」は採択を求めます。

最後に、陳情第101号「国連女性差別撤廃条約「選定議定書」批准を求める意見書採択に関することについて」は採択を求めます。

1979年国連で生まれた女性差別撤廃条約はあらゆる分野で女性が性に基づく差別を受けない権利と平等を保障しています。日本はこの条約を1985年に批准しています。

しかし、女性差別撤廃条約制定から20年を経た1999年、条約の実効性を強化するために、採択されたのが女性差別撤廃条約選定議定書です。が日本はまだこれに批准していません。1人1人の女性が抱える問題を解決するためにもぜひ採択すべきと申しあげて討論を終わります。